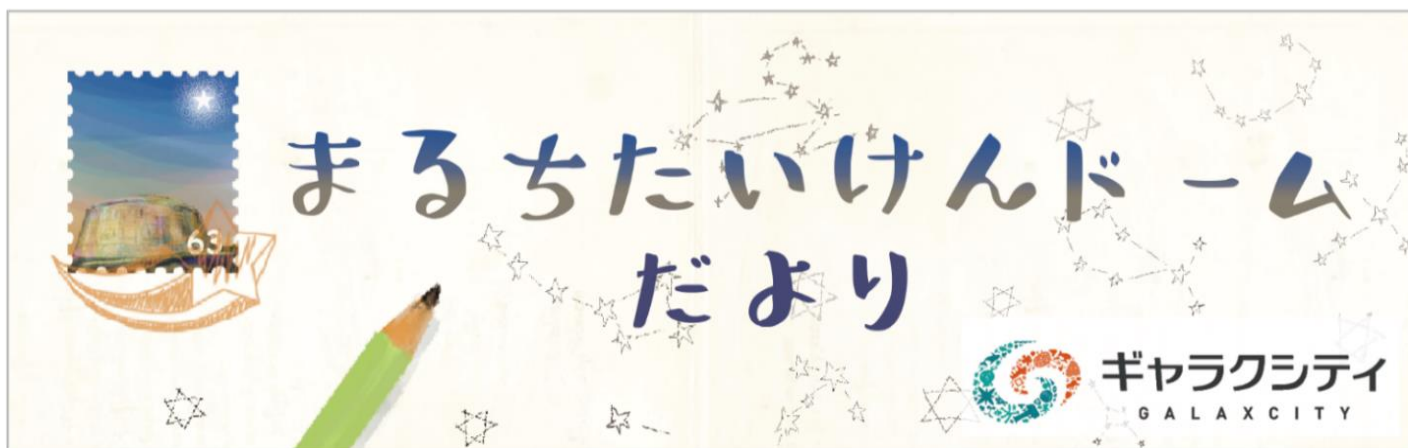




春分によせて

3月20日は春分の日です。秋分の日とともに祝日となっていて、「国民の祝日に関する法律」ではそれぞれ「自然をたたえ、生物をいつくしむ」「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ」とされています。もともとは、その前後3日の7日間は「彼岸」という、先祖を祭る日でした。



春分や秋分は別の見方ができます。この時期は昼と夜の長さがほぼ等しくなります。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、昼夜の長さが同じならそうだよネと思う人も多いことでしょう。暑くもなく、寒くもなければ「お墓参りに行こう」という気分になるかもしれません。また、春分・秋分には太陽は真東から昇って真西に沈みます。仏教の天国である「西方浄土」の方角に通じる、あの世に続いているとの考えから、お墓参りの風習が生まれたのでしょう。



天文学での春分と秋分は、黄道（太陽の通り道）と天の赤道が交差する点を太陽が通過する瞬間のことです。この瞬間を含む日をそれぞれ春分の日、秋分の日と定めています。かなり遠い将来まで計算で予測することはできますが、カレンダーのどの日に当たるかを政府が正式に決定し公表するのは、

2020年の秋分から2021年の春分までの時間	178日20時間7分
2021年の春分から2021年の秋分までの時間	186日9時間44分
合 計	365日5時間50分 ※

前の年の2月のことです。 ※月の影響で地球の位置が揺らぐので、この値は本に載っている1年の値と少し違います。

地球は太陽の周りをわずかに歪んだ軌道で回っています。そのため、秋分から春分までの長さ（冬の長さ）と春分から秋分までの長さ（夏の長さ）は同じではありません。地球の北半球にある日本では、夏の方が7日半ほど長いという事になります。何だか不思議な感じがしますね。それだけ地球の軌道は楕円だという事です。